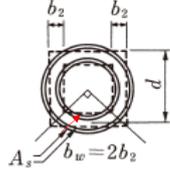
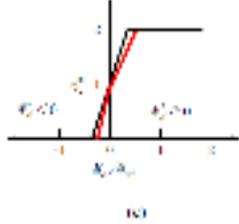


2007年制定 コンクリート標準示方書【設計編】

正誤表

2008年9月4日作成

	頁	行、図・表 番号	誤	正
本編	116	2	・・・ V_{cd} が式(9.2.5)より・・・	・・・ V_{cd} が式(9.2.4)より・・・
	117	27	・・・一般に、式(8.3.3)・・・	・・・一般に式(8.3.4)・・・
	132	33	・・・ストラッドタイムモデル・・・	・・・ストラット-タイムモデル・・・
	134	図9.2.2	中空円形断面 A_s の矢印の位置	中空円形断面 A_s の一方の矢印が、下図(赤矢印)のように内側の鉄筋位置を示すようにする  中空円形断面
	135	29,33	・・・ f_{vcd} ・・・	・・・ f_{vcd} ・・・
	136	2 および 解説図9.2.3	f_{vcd}	f_{vcd}
136	解説図9.2.4	解説図9.2.4(c) $0 \leq M_0/M_{ud} \leq 0.5$ 区間の勾配が- $0.25 \leq M_0/M_{ud} \leq 0$ と同じ	$(M_0/M_{ud}, \beta_n) = (-0.25, 0), (0, 1), (0.5, 2)$ を通る折れ線(下図の赤線)とする 	
141	式(9.2.11) 式(9.2.12)	f_{pcd}	f_{pcd}	
142	解説図9.2.8	f_{ck} と f_{pcd} との関係	f_{ck} と f_{pcd} との関係	

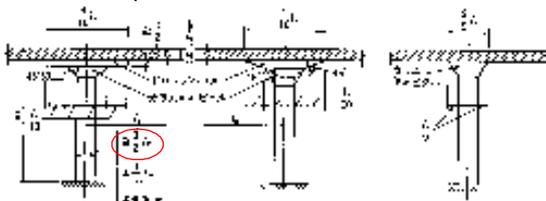
標準	307	解説図2.2.1	図の縦軸、横軸に説明無	縦軸：所要降伏震度 K_{IV} 横軸：等価固有周期 T_{eq} (sec) を追加
	318	16	$\gamma_i \cdot V_d/V_{yd} > 1.0$	$\gamma_i \cdot V_d/V_{yd} \leq 1.0$
	318	30	・・・, 一般に1.0としてよい.	・・・, 一般に0.1としてよい.
	320	表2.1		表2.1「W/C**の最大値」に単位「(%)」 を追加.
	322	解説図3.2.1 横軸の記号	$c_s/\sqrt{D_s \cdot t}$	$c_s/\sqrt{D_s \cdot t}$
	343	解説表4.2.1	$Q_\infty = aC + b$	$Q_\infty = aC + b$
	347	1行目に追加		[解説] (1)について の最後に以下の文を追加. 「工場製作される鉄筋コンクリート構造の各部分材のかぶりは、現場打ちされる場合に比べて適切に減じた値としてよい。一般には、[設計編：本編]15.10.8によってよい。」
	348	下から3～4行目の間に追加		[解説] (1)について の最後に以下の文を追加. 「工場製作される鉄筋コンクリート構造の各部分材の鉄筋のあきは、現場打ちされる場合に比べて適切に減じた値としてよい。一般には、[設計編：本編]15.10.9によってよい。」
	354	8	(iii)	(iii)
	363	10	(3) (2)の条件の両方が・・・	(3) (1)の条件の両方が・・・
	364	1	(1)について (i)重ね継手部での・・・	(1)について 重ね継手部での・・・
	364	9	(ii)	(2)について
	364	11	(iii) (ii)に準じて定めた.	(3)について (2)に準じて定めた.
	364	12	(iv)	(6)について
	364	15	(v)	(7)について
	373	17～26	【解説】 (1)について 複数の・・・ 実用的である。 複数の・・・(前段と同文章)・・・実用的である。ただし、・・・	文章重複部分削除

	頁	行、図・表 番号	誤	正
参考資料	482	3	[設計編：本編]5章5.2.4に規定している・・・	[設計編：本編]5章5.2.3に規定している・・・
	483	5	・・・, 4.3.2(2) 解説に示した・・・	・・・, 4.3.1(3) 解説に示した・・・
	483	12	・・・4.3.2(2)に従って・・・	・・・4.3.1(3)に従って・・・
	487- 488	解説図4.3.2	解説図4.3.2 (図番が重複している)	P487の解説図4.3.2を解説図4.3.3 P488の解説図4.3.3を解説図4.3.4 に変更し, 対応する解説文中の図番もあわせて 修正.

2008年10月6日追加

	頁	行、図・表 番号	誤	正
本編	120	2	・・・式(8.2.1)に準じ・・・	・・・式(7.4.4)に準じ・・・

2009年2月25日追加

	頁	行、図・表 番号	誤	正
標準	293	図6.3.6	$\geq \frac{1}{2}lx$ 図中の赤で示した箇所 	$\geq \frac{1}{20}lx$

2009年9月7日追加

	頁	行、図・表 番号	誤	正
本編	217	式(解15.3.14)	$\Delta\varepsilon_p(t=\infty) = \frac{P_t - P_e}{E_p A_p} - \Delta\varepsilon_c(t=\infty)$	$\Delta\varepsilon_p(t=\infty) = \frac{P_t - P_e}{E_p A_p} = \Delta\varepsilon_c(t=\infty)$

2010年9月16日追加

	頁	行、図・表 番号	誤	正
標準	336	解説表3.1.1 下から3行目	フーチング R_N (解説 図3.1.4 (a)) R_{M1} (解説 図3.1.4 (b)) R_{M2} (解説 図3.1.4 (c))	フーチング R_N (解説 図3.1.3 (a)) R_{M1} (解説 図3.1.3 (b)) R_{M2} (解説 図3.1.3 (c))
標準	338	下から2行目	一般に水セメント比の小さいコンクリートを用 いれば, 小さなかぶりでも中性化の照査に合格 することができる. ただし, かぶりは鉄筋径よ りも小さくすることができない.	削除する

2010年10月6日追加

本編	114	下から13行目	8.2.7に示した・・・	8.3.7に示した・・・
----	-----	---------	--------------	--------------

2011年6月14日追加

本編	248	上から15行	・・・であり, 接合部の設計は15.8.7に基づいて行 うものとする.	・・・であり, 接合部の設計は15.10.7に基づいて行 うものとする.
----	-----	--------	--	---